



物語 パリの歴史

著者：高遠弘美

282ページ

220781107 弭間美玖

< 目的 >

パリの歴史を読者が最低限認識



< 目次 >

第1章：パリの起源・ローマ時代

第2章：百年戦争 ジャンヌ・ダルクの登場

第3章：フランス革命

第4章：第一次世界大戦 / 第二次世界大戦

第5章：五月革命

まとめ

第1章：パリの起源・ローマ時代

シテ島 = ノートルダム大聖堂や最高裁判所が所在
→ パリシー族のケルト系民族が集落形成。

シテ島は「ルテチア・パリシオルム」の別名有
→ パリの由来！

当時は、セーヌ川やその支流の漁業や交易で生活

第1章：パリの起源・ローマ時代

<ローマ時代の名残>

3世紀：パリがキリスト教の都市に！

サント・ジュヌヴィエーヴの丘も

ローマ名で浸透

→ここにもローマ人が多数居住

他にも、、、

国立クリュニー中世美術館とルテチア円形劇場跡

→ローマ時代の痕跡有



第1章：パリの起源・ローマ時代

「パリのディオニシウス」：最初の司教

フランスの守護聖人

多くの民をキリスト教に転向→モンス・メルクリウスの上で処刑

357年：コンスタンティヌス1世の甥のユリアヌスが
パリの首長に命名



第1章：パリの起源・ローマ時代

5世紀：東方のフン族のアッティラからの侵攻

→ 強大な勢力を所持

⇒ パリ侵攻は、**聖ジュヌヴィエーヴ**の信徒らによって退避

◎ 聖ジュヌヴィエーヴ

もともと羊飼いで数々の奇跡を誘発

よって、信徒らから絶大な敬愛を受領

この時、すでにローマ帝国の権威は衰退 → フランク王国の時代到来

第2章：百年戦争 ジャンヌ・ダルクの登場

百年戦争とは

1339年から1453年間の100年以上の

イングランド王国(イギリス)とフランス王国の戦争

ジャンヌ・ダルクが槍小隊を引率→戦況はフランスが有利に！

そして、ジャンヌ・ダルクは愛国の象徴として賞賛

→ジャンヌ・ダルクの死後も戦争は継続

1453年：アラスの和約でパリを奪回

ボルドーでの勝利で戦争終了



第2章：百年戦争 ジャンヌ・ダルクの登場

その頃パリでは、、、

飢饉や極寒で苦しい日々が継続、、
ペストの流行や深刻な経済危機も発生

パリ市民＝ジャンヌ・ダルクは敵側の女戦士
→評判×



第3章：フランス革命

◎ フランス革命

「大革命」とも呼称

1789年4月26日から28日勃発の「レヴェイヨン事件」を境に一気に拡散

また、バスティーユ牢獄襲撃事件をきっかけにフランス革命がスタート

第3章：フランス革命

◎ナポレオン

相手を次々と撃破→国民は大熱狂！！
フランス帰国後クーデタを起こして総裁政府を倒し、
一気に国のトップに

ナポレオンが「フランス革命はもうおしまい！」と宣言
10年間の長いフランス革命が終結
⇒ここからフランスは、ナポレオンの独裁時代に、、

第3章：フランス革命

ナポレオンの独裁時代突入後

第4章：第一次世界大戦 / 第二次世界大戦

1914年6月28日 サラエボ事件

⇒連鎖反応のように戦争当事国が急増

8月2日 ドイツ VS フランス 開戦

11日 フランスがオーストラリアに宣戦布告

戦争終結 ⇒ 社会的かつ経済的混乱は未消化
デモやストライキも多発



第4章：第一次世界大戦 / 第二次世界大戦

1939年9月3日 イギリスとフランスがドイツに宣戦布告
⇒ 第二次世界大戦の始まり

9月18日 ド・ゴール将軍がロンドンで対独レジスタンス
を訴訟→自由フランス軍が組織

1944年8月25日 ドイツ軍パリ軍事総督が降伏文書に署名
翌日、パリは解放

第4章：第一次世界大戦 / 第二次世界大戦

その頃パリでは、、、

富裕層を中心にパリから避難

ルーブル美術館の多くの作品はトゥールーズに移動

→パリも戦地に、、、

パリは連合軍側からの空襲の被害

→死者は1,100人超

第5章：五月革命

1968年5月 パリの大学生が政府の教育政策に不満を爆発
そして、学生らの暴動がきっかけで勃発
ド・ゴール体制への広範な労働者・市民の反対運動

政府も労組に賃上げを約束後、運動を懐柔→6月には平静に

6月の総選挙は暴動への反動からド・ゴール派が圧勝
危機は退去

結論 まとめ

パリはこれまでに変転を継続

→パリの歴史は逆説的に、不動のパリを支持

